

令和3年9月町長選挙に

対する考えについて



質問者
内田 晃 議員

本山町政が誕生して早7年が経過した所であり

ます。この間若い発想力とフットワークの良さから国・県等の補助金を有効活用し様々な事業を展開されて来られました。

子育て世代の方々の定住を図った町屋地区の住宅建設、河内地区に新たな町営住宅を建設、旧土木事務所跡地の活用、又、町民文化センター補修事業、これについては賛否様々な意見がありました。が、町長の取り組みには一定の評価をしたいと思っております。

ここで町長にお伺いさせて頂きます。来年9月には町長改選を迎えますが、町長は三期目を目指して立候補するお考えは

あるのか明確にお答え願います。

A



然るべき時期に判断

回答 (町長)



子育て支援住宅(ラ・メゾン カラフル町屋)

今は、町民の皆さんにお約束したことを一つ一つ集中してやって行き、然るべき時に自身の進退について判断したいと考えている。

次期町長選挙について、三年二ヶ月前に出させて頂いたリーフレットやマニフェストを読み返すと、まだまだ出ていないことが多々ある。ただそれだけをやって選挙公約を達成したとは思っていない、やらなければならぬ事はまだまだ数多く有る。事業を行う上でも当然財源が必要である。優秀な職員共々一生懸命頑張っている所でもある。

現在コロナ禍の対策の中で、町民の皆様の感染不安と生活苦に直面している時期に、自分の事に構ってられないという思いがある。

町営住宅の空家状況を問う



質問者
中野 博 議員

空家となった住宅は、防犯上からも、衛生面及び美観的にも好ましくありません。空家となって長い間放置されているままになっているものもあるようですので、次の2点についてお伺いします。

(1) 再入居のない一戸建ての取り壊しの基準は？
(2) 取り壊し後の、町有地の利用計画は。

A



防犯・衛生面を優先に

回答 (町長)

(1) 現在、松田町には町営住宅は92戸あり、その内、空家となっている木造平屋の一戸建て住宅は7戸ある。

昭和40年代の古い建物なので、退去後は入居者の募集を行わず取り壊しを行うこととしている。

取り壊し物件については国の交付金を活用しているため、補助金の限度内で年に2戸程度を行っている。原則として退去順を基本としているが、防犯上や、衛生面など近隣への影響等を考慮しながら決定している。

(2) 取り壊し後の町有地の有効活用については民間事業者等のノウハウや技術力を導入し、人口減少対策並びに町民税等の



松田町営住宅(戸建て)

自主財源の確保に向け、住宅地等の誘導を進め、計画的かつ積極的な有効活用を推し進めていく。